

## 活用事例 7

■学年：6年生

■教科：社会

■単元名：はるひ野のまちづくり

■ねらい：はるひ野のまちづくりの事例を通して、快適で便利なまちにするために、地域の人たちと地方公共団体が協力し合ってまちづくりに取り組んでいることが分かる。

■指導の流れ（3時間）

- 1.はるひ野小中学校は誰が、どのようにつくったのかを予想する。
- 2.はるひ野小中学校は誰が、どのようにつくったのかを調べる。
- 3.はるひ野小中学校のまわり（はるひ野のまち）は誰が、どのようにつくったのか考える。
  - ・小中学校と同じような感じではないか。
  - ・でも、住宅は公共施設ではないよ。
  - ・まだ、空き地も多いから決まっていないのではないか。
- 4.市街化予想図を見て考える。
  - ・どこに何をつくるのかが決まっている。
  - ・市の土地でもないのに、こんなことが決められるのか。
  - ・よく見ると、「行政商業施設、計画住宅などの名称は、各街区に実際に建設される建物用途を限定するものではありません。」と書いてある。ただの予想？あまり意味がない？
- 5.市街化予想図は、誰が何のためにつくったのか「まちは友だち！」を参考に考える。
  - ・勝手にいろいろなものをつくとまちがゴチャゴチャになってしまう。
  - ・まちが汚くなる
  - ・ルールがあるとおしゃれになるって書いてある。
  - ・他のまちでも「〇〇委員会」をつかって、まちづくりをしているよ。
  - ・きれいなまちにするために川崎市が考えたのではないかな。
  - ・どのまちでもめあてをもってまちづくりをしているよ。はるひ野のまちにもめあてみたいなものがあるんじゃないかな。
- 6.まちなみ協定について調べる
  - ・はるひ野のまちは、住む人が気持ちよく便利に暮らせるように、川崎市の人が地域の人たちと相談しながら、建設会社の人たちとつくっている。
- 7.はるひ野のまちづくり計画がどのように実現しているか、実際に現地に行って調べる。
  - ・市街化予想図（川崎市提供）、P31～ まちづくり事例だよ！、まちなみ協定「ひとにやさしいまちづくり はるひ野」（川崎市提供）